

2020 年度業務実績報告書

提出日 2021 年 1 月 20 日

1. 職名・氏名 教授 亀田 勝見

2. 学位 文学博士、専門分野 中国思想史、
授与機関 京都大学文学部、授与年月 1999 年 3 月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 中国語Ⅰ・Ⅱ（各 1 単位、毎年開講） 1 年生 2020 年度
② 内容・ねらい（自由記述） 初修外国語として中国語の入門を身につけさせる。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 多人数相手ではおろそかになりがちな発音能力の向上と、期末テストまで復習をする意志の低い学生に復習の習慣づけることを目的として、以下工夫を行った。 使用する教科書に対応した Web ページを自作。クリック一つで音声を確認めることのできる教材として、授業時間の内外を問わず利用できるようにした。 毎年授業を LL 教室で行う。②の教材を授業中必要な時にいつでも利用できる環境を提供。併せて F レックス LMS を活用し、学生との密なる連絡や電子教材の提供の便に供した。 加えて遠隔授業が多い今年度は、「ロイロノート・スクール」というオンライン学習サービスを利用、学生が手書き解答の写真や動画による発音を提出したりすることが大変容易となる機能を最大限に活用できた。今年度は試用期間で無料だったが来年度からは有料となり、大学から予算をつけてもらえなくなるので来年度は使えないのが大変残念である。 数課ほど学習が進んだところで、単語聞取や作文による復習の小テストを実施し、記憶の定着を促した。 例年、言語の学習だけではなく文化交流的学習も重視しており、本学に留学している中国・台湾からの留学生との交流授業を 2016 年度以来実施してきた。また、2019 年度からは SA 制度が導入されたため、中国語ネイティブの学生に授業補佐をしてもらった。折に触れて SA に話をふって授業に関連したエピソードなどを披露してもらったり、学生達の発音指導や会話練習のお手伝いをしてもらったりしていた。 しかし、2020 年度は新型コロナ蔓延により前期はすべて遠隔授業、後期も 3 分の 2 を遠隔授業とせざるを得なくなった。そのため予定していた交流授業も実施できず SA 制度も利用しなかった。遠隔による授業では顔を見ながら発音する練習が不足し、期末テストをはじめとする各種テストも思うようにできず苦慮した。後期は一部対面授業が可能だったが、やはり感染防止のため隣の学生とペア練習させたり大声で発音させたりすることができず、語学授業としては甚だ不本意な授業となった。
① 導入ゼミ（1 単位、毎年開講） 1 年生 2020 年度
② 内容・ねらい 教員の専門である東洋の分野を題材として、大学に入学したばかりの一年生に、大学での資料収集・作成や発表などの基本ルールを身につけさせる。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 授業の前半では、毎回導入教育関連のスキル取得目的で、グループワークを行わせる。各自が行った作業をグループごとに討議させ、その結果を他グループに発表させることで、より豊かな経験へとつなげる。 後半は、各グループごとに一つのテーマを決めて発表を行うための一連の作業を行う。全体で統一した大テーマがあるため、グループ間のやり取りも必要で、中間発表などで進捗状況確

認や不備などを確認し、5～6週を費やした上で最終発表にもっていく。

上記作業以外にもテーマを与えて小発表もさせるが、その都度聞き手の学生はそれに対して質問をぶつけ、意見交換を行わせる。加えて、時間終了後に F レックス LMS 上で聞き手の学生からの評価や質問を受け、発表者に返す。

これらの課題を課すことにより双方向のやり取りを実現して大学ならではの学習形式を理解させる。

2020 年度は新型コロナ蔓延により遠隔授業で実施した。対面授業が前提のゼミなので、不具合が多々あり、グループワークなども不十分であった。

① 東洋思想（2 単位） 1 年生 2020 年度

② 内容・ねらい

古代中国の思想展開を、思想史という形で年代順に解説することで、時代ごとの思想継承や変化を理解させる。ただし 2018 年度からは小テーマを四つ設け、序盤の数回で中国史・中国思想史の概説を行った後、テーマごとの思想史を 3・4 回単位で講義する方針に変更した。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

理解の助けとして、プレゼンテーションソフトによる画面と書き込み用プリントを配っている。講義に連動したプレゼン画面を見ながらプリントの空欄を埋めたりメモをさせたりして、講義内容への興味を保つよう心掛けている。また、授業の最後にはその日の内容を踏まえて学生個々に意見や感想を書かせる。

内容の性質上、文献資料中心の授業となるので、内容に少しでも関連する写真や図、ビデオなど、極力視聴覚に訴える教材をプレゼンテーション画面に組み込むよう努めている。

2020 年度は新型コロナ蔓延によりその多くを遠隔授業で行わざるを得なかった。不便な点もあったが、逆に遠隔授業の利点を生かし、12/19（補講日）には他大学の研究者をゲスト講師に招いてオンライン講演を実施できた。

① 学術ゼミ（前期および後期、各 2 単位、毎年開講）2020 年度

② 内容・ねらい

唐以前の漢文古典資料に訓点を施した教材を利用して、訳注を作成することで、漢文読解能力の向上を目指す。同時に、各教材を読み込むことにより、古代中国の歴史・思想・文化を学ぶ。

2015 年度より海外実地研修を導入。文献上だけでなく実際の体験で中国の学問・宗教・文化を理解させる。ただし、2020 年度は受講者数不足により研修を実施しなかった。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

訳注作成に対する要求レベルは高く設定していない。一方で、授業中に訳案を出席者で討論して結論を導いていくことに重点を置く。

2020 年度は受講者がいなかったので不開講となった。

① 研究の世界（2 単位、毎年開講）2020 年度

② 内容・ねらい

学術教養センターに属す教員が毎週入れ替わりで登壇し、各々の専門分野に関する研究内容を学生に紹介する授業。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

研究内容をそのまま話しても、学生にとっては意義を見出しがたく、退屈でもあるので、テーマとして研究してきた「運命と人為」について、いくつかの論文で取り上げた内容を平明な内容にして講義した。その際、プリントとともにプレゼンテーションソフトで作成したスライドで図式などを表示し、学生が受身にならないよう、プリント内の空白を埋めてもらう形で授業に参加してもらう形をとった。

2020 年度は新型コロナ蔓延により不開講となった。

① 比較文化論（2 単位、毎年開講）2020 年度

② 内容・ねらい

学術教養センターに属す教員が毎週入れ替わりで登壇し、各々の専門分野に関連する国の文化を紹介する授業。亀田は台湾をテーマにして講義した。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

台湾と日本との交流を基軸として、導入ではネット上の動画を紹介することで台湾への関心を喚起した。引き続き台湾の地理・歴史・社会・文化を語り、最後に再び日台間の交流へ話を戻して講義全体の起承転結を完成させた。途中で台湾からの留学生に話を振ったりして話の現実味を出すことにも心掛けた。

2020 年度も担当を引き受けていたが、体調不良により担当回を実施できなかった。

(2)その他の教育活動

LCAP (1 単位、8 月第 2 週～第 4 週) 2020 年度

中国および台湾の提携校受け入れ先とした、短期語学留学プログラム。

中国語を 1 年以上学んだ学生に対して、実地での学習と言語活用経験の機会を与え、語学力のさらなる向上を目指す。2012 年度の上海以来、応募人数の不足により成立していなかった LCAP だが、2015 年度より 2 週間の学習プログラムとなって、当初 5 名、最終的には 3 名の学生が台湾の国立高雄第一科技大学に赴いた。2017・2018 年度は定員いっぱいの 5 名派遣を実現させた。2019 年度は最終的に 3 名の派遣となった。

期間中のほとんどは受け入れ先の教員による指導。亀田はそのうち後半の一週間ほど同行視察し、学生達の学習・生活状況を調査・確認した。

2020 年度は高雄と台中の 2 箇所計 5 名を派遣予定だったが、新型コロナ蔓延に伴う相手国の受入れが困難となったため、中止となった。代替措置として、2021 年 3 月上旬にオンラインで高雄科技大学との中国語交流イベントを実施予定。参加者は派遣予定だった学生のうちの 2 名と今年度中国語初級クラスを履修中の 1 年生 1 名の計 3 名。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 論文
② 著書
③ 学会報告等
④ その他の公表実績
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動
学会での役職など (学会名) 日本道教学会評議員 2014 年度～
学会・分科会の開催運営 (担当学会 (大会) 名 (開催年月日)、開催場所)
(3)研究会活動等
① 『王勃集』読書会 (宇佐美文理代表)、2020 年度
② その活動による成果 訳注作成を主目的としており、一定の範囲を終了させた段階で成果報告を出す予定 年度内に 1 回程度、訳注案作成を担当した。 2020 年度は新型コロナ関連で休会となっている。
① 「道教思想研究会」読書会 (金志玪代表)、2020 年度
② その活動による成果 訳注作成を主目的としており、一定の範囲を終了させた段階で成果報告を出す予定 年度内に 1 回程度、訳注案作成を担当した。 2020 年度は新型コロナ関連で半年休会となったが、9 月よりオンライン会議で再開した。
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
なし。研究を進める上で外部資金まで必要としないため、応募していない。
(5)特許出願

5. 地域・社会貢献活動

(1)学外団体
① ・地方公共団体等の委員会・審議会
② ・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間）
③ （公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加
④ （兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間）
⑤ 学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 （事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間） なし
⑥ その他（名称、活動場所、活動期間）
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時）
② その他（名称、活動場所、活動期間）
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）
（活動内容、主たる活動場所、活動期間） ・ 本学のサークルとして「fpu 太極拳サークル」を主催。2020 年度 学内外の学生・教員・留学生および一般人を広く招き、太極拳を指導。週 2 回の活動を行う。 留学生交流会や、学術交流協定校との交流会などで演武を披露。 2020 年度はコロナ蔓延により前期は活動休止、後期も遠隔授業期間は活動できなかったの で、都合 1 ヶ月半程度しか活動できなかった。

6. 大学運営への参画

(1)補職
（職名、期間）
(2)委員会・チーム活動
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など
・ 海外研究WG（部局内活動）、2020年度